■カレント巻頭言 6■

皇居勤労奉仕で得た 感動と感謝

室舘（むろだて） 勲（いさお）
（株式会社 潮流社 代表取締役社長）

先月号では「日本から何を取ったら日本ではなくなるのか」というタイトルで、日本を支えてくださっている皇室について述べました。私が団長を務めている志学奉仕団では平成21年より皇居勤労奉仕に参加させていただいており、これまで１００名を超える若者が勤労奉仕を経験していることにも触れましたが、参加された皆さんは大変感動しております。

そして、参加された方々のご家族や周りの方にも大変良い影響を与えているというお話も多数届いています。今回は、勤労奉仕に参加した方の感想の中から３つ紹介したいと思います。

■皇居勤労奉仕に参加させていただき、私は運よくご会釈を賜ることができました。ほんの数メートルの距離で天皇陛下にお目にかかれることは人生にとって大変貴重な経験になりました。また、皇居内をご案内してくださる庭師の方との会話も皇室のリアルなお話を聞くことができ、貴重な経験となりました。両親に参加した経験を話すと「すごい経験をさせてもらっているね！」と言ってくれました。（20代女性）

■皇居勤労奉仕に参加した経験を祖母に電話で話し、皇居内の売店で販売していたカステラをお土産として送りました。電話で勤労奉仕の説明をしている時点で感動していることが伝わりました。お土産として送ったカステラは他界していた祖父の仏壇にお供えしたのちに召し上がったそうですが、最後まで「食べるのがもったいないわ」と言っていました。（20代男性）

■実家に住んでいる祖父母に皇居勤労奉仕に参加をした話をしました。祖父母は家に昭和天皇の写真を飾っており、祝日には必ず国旗を掲揚しているので今回の経験を絶対に話したいと思っていました。最初に参加した時に撮影した記念写真を見せた時点で目の色が変わりました。特に祖母は普段おしゃべりで色々な話をしてくれるのですが、このときは黙って嬉しそうに写真を眺めていました。

赤坂御用地の写真を見たときに祖父が「ここ行ったなぁ」とニコニコしながら言いました。なんと祖父母は10年ほど前に、ある御縁から園遊会に参加する機会があ

り、天皇皇后両陛下（現・上皇上皇后両陛下）に拝謁したことがあったそうです。

賢所にも行ったことがあるようで、賢所の裏側を掃除してきたと話すと祖母は涙を流しながら「本当に素晴らしいことをしてはる会社だわ。もっとこういうことをしていってね」と繰り返し言っていました。祖父母にまで笑顔を与えていただき、本当にありがとうございました。（20代女性）

若い彼らにとって皇居勤労奉仕に参加した経験は、これからの長い人生においても非常に大きな経験になると思いますが、このようにご家族を含めてすぐに反響があることも大変嬉しく思います。

私も20回以上の勤労奉仕に参加する中で、とても印象に残っている今上陛下との出来事があります。平成21年から31年までの10年間は、皇太子殿下としてのご会釈を賜っています。当時から非常に穏やかで素晴らしいお人柄が滲み出ておりました。皇太子殿下が水の研究をされていると知り、本誌に「くにまもりの提言」を寄稿していて私も関わっている、１００年後の世界と日本を考える『しがく総合研究所』でも水の研究を始めました。３回目のご会釈の際にバーチャルウォーターのお話をしたときは、目がキラリと光られたことを今でも覚えています。

平成23年に天皇陛下（当時）の体調が思わしくないというニュースが流れた際、偶然にも勤労奉仕に参加し、皇太子殿下のご会釈を賜る機会をいただきました。そのときの皇太子殿下は、天皇陛下の代行としてのご自覚からか、いつもの穏やか空気とは違った逞しさや力強いリーダーシップに溢れる佇まいでいらっしゃいました。天皇陛下の体調が無事に回復された後にご会釈を賜ると、これまでの温和で安心感のある空気に戻られたように感じました。皇太子時代から日本を背負われる強いご覚悟を持たれていることが伝わりました。

平成31年に天皇陛下が生前退位されることが決まり、御代替わりされてすぐの令和元年5月にも運よく勤労奉仕に参加することができました。令和の天皇陛下としてのご会釈を賜わると、また一段と日本国民統合の象徴であるというご覚悟がひしひしと伝わってまいりました。

天皇陛下という重責を担うことは簡単なことではありません。しかし、それでも今上陛下は日本のことを考えて引き受けてくださっていると実感したエピソードでした。心より感謝、そして尊敬申し上げます。皇室の弥栄と令和の御代の安穏を心からお祈り申し上げます。

※年代は感想をいただいた当時のものです。

カレント年間購読はコチラ⇩